



アセスメント I 環境設定を考える上での自閉スペクトラム症の特性

日付: 対象者: 事業所: 記入者:

項目		評価	具体的な設定や対応
注意散漫さ不快な刺激の除去	周りにある物や刺激に注意が奪われ、接近したり触ったりする		
	周囲の人の声、動き、目線などが気になり、動きが低下する		
	人と関わるのが苦手、あるいは不適切な関わりが多い		
	見えるもの、音、触れるもの、臭いなどに注意が奪われる		
	広い空間だと動き回る、走り回る		
	注意や興味が短時間で移り変わっていく		
	衝動的で見えるものにすぐ反応する		
	物や刺激が多いと混乱する		
	部屋は比較的シンプルで物が無い状態を好む		
	狭く、閉じた空間だと落ち着いている		
	注意の範囲が狭く、合図に注目し難い		
活動場所と境界の明確化	活動場所がいつもと違うと混乱したり、不穏になったりする		
	物の位置がいつもと変わると元に戻そうとする、不機嫌になる		
	情報や刺激を整理したり、まとめたりするのが苦手		
	車や椅子などで座る位置にこだわる		
	ある特定の場所で特定の活動をする傾向がある		
	自分と他の人がやっていることが違うと混乱する		
	境界線やマット、場所のラベルなどが境界の理解に役立つ		
	こだわっているものから別の活動に切り替えが難しい		
	どこで何をすればいいかわからず部屋を動き回る		
	初めての場所だとあちこち見て回って確認行動が多い		
ルーチン化	作業や活動の手順を憶えて実行するのが苦手		
	行動の流れがなかなか定着しない		
	活動の流れが一定方向だと習慣化しやすい		
	いつも同じように繰り返す儀式的行動がある		
	物を順番に並べるとその通りに実行しやすい		
	順番通りに物事を進めることを好む		
	数字の並びや物の配列にこだわる		
	活動の流れが習慣化すると次にやるのがわかりやすい		

評価の記号: ○-良く当てはまる △-半分くらい当てはまる ×-当てはまらない



アセスメント 2 予定と変更の見える化の視覚的合図

記入者：

利用者：

日付：

視覚的合図の種類		評価	説明や例
具体物	使用するもの		食事は箸、余暇はブロック、おやつはコップなど
	代表するもの		その場所で使うミニチュアや物の一部など
	シンボル		活動とは直接関係ない型はめやプットインなど
写真カード	背景なし		活動で使う代表的な物を背景なしで写した写真
	背景あり		活動の場所を背景ありで写した写真
	本人あり		活動をしている本人が入った写真
絵カード	写実的な絵		実物に近い絵やイラスト
	線画		漫画っぽいイラストや線画
	シンボルマーク		学校や公共施設などで使われるピクトグラムなど
文字	文字カード		活動を表すひらがなや漢字などの単語のカード
	文章のリスト		活動を文章で表現したリスト

※評価：○-本人が確実にわかる、△-わかったりわからなかったりする、×-全くわからない

予定と変更の見える化の形態

種 類		評価	説 明
掲示場所	固定型		起点となる台、壁、机やテーブルに固定
	携帯型		場所ごとに本人が持ち運ぶ
掲示方法	支援者提示		支援者が活動の始まり毎に1つずつ渡す
	提示方向		上から下、あるいは左から右
	携帯式		蛇腹式、リング式、バインダー式、手帳タイプ
確認方法	移動カード		カードを活動場所のポケットまで持って移動する
	チェック式		カードを裏返す、終わり箱に落とす、✓マーク、目視
長さ	1つ、2つ		スケジュールカードの意味を教える段階
	半日・全日		施設などに来て帰るまで、起きてから寝るまで
	週間・月間		週や月単位での予定の把握が必要な人
変更や選択の内容			予定の中止、追加、変更、選択肢の提示など